
世界と動き 人は世界に強さを求める

刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界と動き 人は世界に強さを求め

【NZコード】

N8104N

【作者名】

刹那

【あらすじ】

好きな人を亡くした少年の奇跡の物語。

(前書き)

第八回、思いつき余興小説。
幽靈とかでてきますがきにせず読んでください。

世界に乗り遅れていた。

俺は動いていなかつた。

世界は止まることなく動き続け、俺はそれに乗り遅れた。
自分の世界を創り、その中に逃げ込んでいた。

全く、今思えばバカな事だつた。

世界はしつかり俺を乗せて動いていた。

ただ俺はそれに気付いていなかつただけなんだ。
周りの景色を見ようとしていなかつたんだ。

自分ばかり見ていた。

ホントにバカだつた。

俺がもつとしつかりと世界の景色を見ていたら。
皐月は死なずに済んだのに。

多分、今の俺の顔を見たらお前は思いつきりぶん殴るんだろうな
。。

そんな情けねえ^{つう}面すんなつて言つてな。

一人称が、俺、で、ヤンキーで、ツンデレで。

でもどことなく少女つて感じがして。

そして俺が世界の上で一緒に動いているんだって教えてくれた。

最初は無視ばっかされて、その内文句を言つてくるようになつて、いつの間にか笑い合える仲になつていつて。

そして恋に落ちてしまつた。

見事なまでに玉碎されちゃつたけどさ（要はフラれたって意味）。それでも今まで通りの態度を取つてくれた皐月に感謝した。

そして現在、皐月の墓の前にいる訳で。

また明日、来るからな！

菊の花束持つてくるから期待しつけよ。

俺は頬を伝う涙を拭つてから墓に背を向けた。

すると田の前に見覚えのある顔が……。

「なんて顔してんだ！ うつとうじい。蹴り飛ばすぞ」

「皐月……？」

「俺以外の誰が居るつてんだ。ああ…… もウザイ」

皐月は右手で拳を作り振り上げた。

俺はきつくしっかりと目を瞑つた。

だがその拳は俺の頬を捉えずに通り抜けた。

「くそ！ こんな体じやなかつたら思いつきりぶん殴つてやれたのによ！ …！」

「皐月……」

「さよならの挨拶ぐらつて声出して言えや！ それに泣くな。情けね

え」

「あ……」

「さう早く……」

「さう早く……」

皐月は片手で自分の眠る墓を指差した。

俺はいきなりの事態に戸惑いながらも墓に向き直る。

「えつとその……また明日な」

「ああ！　また明日な」

背後から皐月の声がした。

振り返った頃にはそこに皐月の姿はなかつた。

死んでんのに這い出でるひビビリよ?
まあ、俺は嬉しかつたけど。
だからとつあえず……。

「ありがとう。皐月」

これだけ言ひとひ。

世界は動き続いている。
俺や皐月、他の人たち、いろんな存在を乗せて動いている。
俺だけ一人……なんてのは勝手な思い込みなんだ。
周りを見る。
動き続ける限り孤独はあり得ない。

ただ

そこから世界の動きに反するように動いたり、世界より遅かれ速かれ動いてみたりすることで

人は成長していく。

皐月。俺は……。

「お前は十分強くなつたよ」

不意に声が届く。
だが俺は振り返らない。
その声の正体を誰か知つていてるから。

だから

俺は

世界と一緒に動いていられる。

(後書き)

意味不明かもしません。

すいません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8104n/>

世界と動き 人は世界に強さを求め

2010年10月10日15時22分発行